

図書館員のひみつの本棚 第 213 回

今月は優れた児童文学に贈られるカーネギー賞を受賞した作品です。

『荒野にヒバリをさがして』

アンソニー・マゴーワン／作 野口 絵美／訳 徳間書店 2022年 ¥1400(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★☆☆ 中学生★★★★

高校★★★★ 一般★★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

春先に鳴くヒバリを見るため、田舎へハイキングにいった兄弟と愛犬が、季節外れの大雪のために荒野で道を見失ってしまいます。遭難の恐怖の中で、失踪した母や、アルコールの問題を抱えた父のこと、恋人のことなど、幼少期からの出来事を回想する主人公。軽い知的障がいのある兄との絆は強く、お互いを支え合って生きている様子が描かれます。軽い掛け合いから始まる物語ですが、心ふるえるような結末が印象的です。

<子どもに手渡す時のポイント>

2020年、優れた児童文学に贈られるカーネギー賞を受賞した作品です。後半部分は、どういう結末を迎えるかとハラハラして、一気に読むことができるかと思えます。たった1日の出来事を中心としたおはなしで、ページ数もそれほど多くないのですが、読みごたえは十分です。深い感動を味わえる作品として、ぜひ、紹介してください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。